

# 経済・金融 フラッシュ

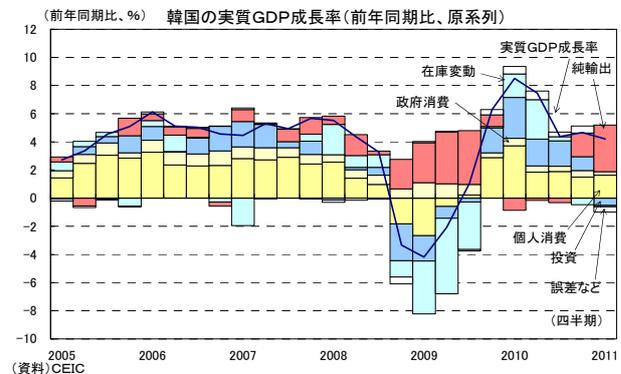
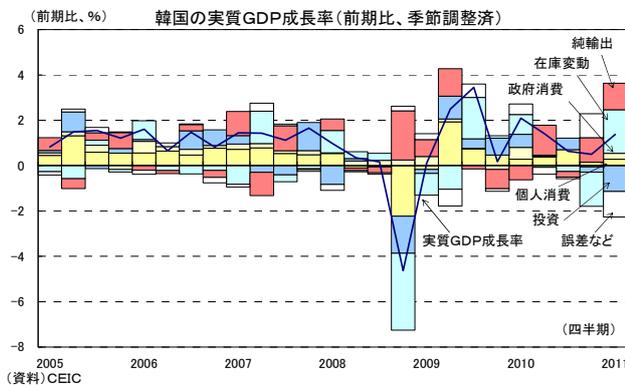
## 韓国 1-3 月期GDP:前期比+1.4% ～輸出が好調。東日本大震災の影響は限定的。

経済調査部門 研究員 高山 武士

TEL:03-3512-1824 E-mail: takayama@nli-research.co.jp

### 1. 予想通りの安定成長

韓国銀行（中央銀行）は4月27日、1-3月期の国内総生産（GDP）を公表した。1-3月期の実質GDP（季節調整済）は前期比1.4%の増加で、昨年10-12月期（0.5%増）より成長ペースが加速した。2011年の韓国銀行の成長率見通しは4.5%で、年内、今期の成長ペースが持続すれば、ちょうど4.5%程度の成長が見込める。今期の成長には輸出が大きく貢献しており、前期比で3.3%増加した。特に半導体、電子部品、自動車といった韓国主要産業の好調さが目立つ。一方で投資が不調であり、設備投資、建設投資はそれぞれ前期比0.8%、6.7%の減少となった。なお、実質GDPの前年同期比は4.2%の増加となっている。



### 2. 東日本大震災の影響－サプライチェーン寸断の影響は限定的

存知の通り、3月11日に日本では東日本大震災が発生した。韓国では製品を作るための部品や素材を日本からの輸入に頼っている部分が多く、日本企業で部品・素材の生産や輸入が中断されると、韓国でも生産が減少する（いわゆるサプライチェーンの寸断）。しかしながらこうした影響は1-3月期の成長率にはさほど見られなかった。日本企業の部品生産や輸入は一部中断されたが、韓国企業で保有していた在庫部品で3月中は生産活動が維持されたものと考えられる。もちろん、サプライチェーンが長期にわたって寸断されれば4月以降は、韓国経済に少なからず影響を与えるだろう。

しかし震災が韓国経済に与えるのはマイナスの影響だけではない。短期的には、災害による特需として食料品などの輸出が増加する。中長期的には、日本でのインフラ需要拡大にあわせて原材料や資本財輸出の増加が見込まれる。加えて、韓国と日本は主要産業が類似しているため、震災によ

り日本企業の競争力が低下すれば相対的に韓国企業は有利な立場に立てる。例えば、日本製部品の調達が困難になった企業には、部品調達先を日本から韓国など他のアジア各国に変更するニーズが生まれる。米国においては、日米自動車メーカーの生産減少が予想される一方で、韓国の主要自動車メーカーである現代・起亜自動車は日本製部品へあまり依存しない生産体制であり、市場シェアを拡大するチャンスとなっている。

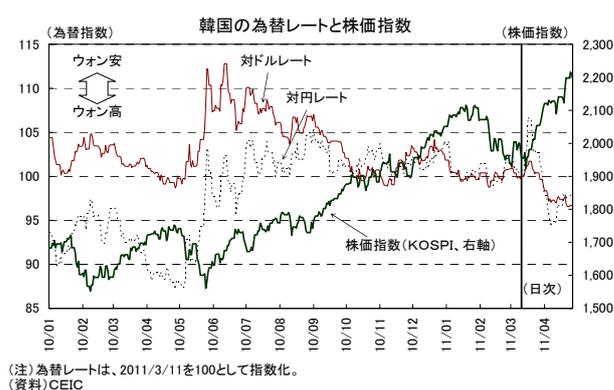
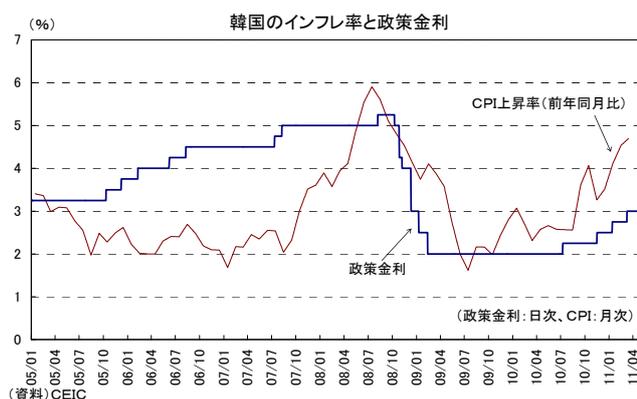
こうしたプラス面を踏まえると、サプライチェーンの寸断が韓国経済に与えるマイナスの影響は小さいと考える。

### 3. 問題はインフレ、ウォン高

韓国が警戒すべきは、ウォン高により輸出競争力が低下することだろう。輸出依存型経済である韓国では、輸出の減速が経済を停滞させてしまう可能性がある。震災後、海外からの資金が韓国に流入しており、株価指数も上昇している。被災した日本などから韓国に資金が移動するなどしてウォンが買われると、ウォン高を通じて韓国の輸出競争力は弱まってしまう。

また、韓国経済は高インフレという問題に直面している。4月1日に公表された韓国の3月のインフレ率は4.7%であり、韓国銀行が採用しているインフレターゲットの目標値(3.0±1.0%)を大きく超えている。ウォン高基調ではあるものの、世界的な食料品と原油価格の上昇によるインフレ圧力は続くと想定される。特に、原油価格の上昇は輸出産業の生産コスト増加という悪影響ももたらす。

インフレ圧力が続く中、韓国銀行は前回(4月12日)の金融政策決定会合では政策金利の引き上げを見送ったため、次回(5月13日)の会合では、利上げを実施する可能性は高い。利上げは更なる資金流入、ウォン高観測を招く。課題はインフレ抑制と、経済成長の持続をバランスよく両立させることである。中央銀行の手腕がためされる局面といえるだろう。



(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。